

1976  
7月19日(月)

開演  
午後7時

朝日生命ホール

新宿  
西口

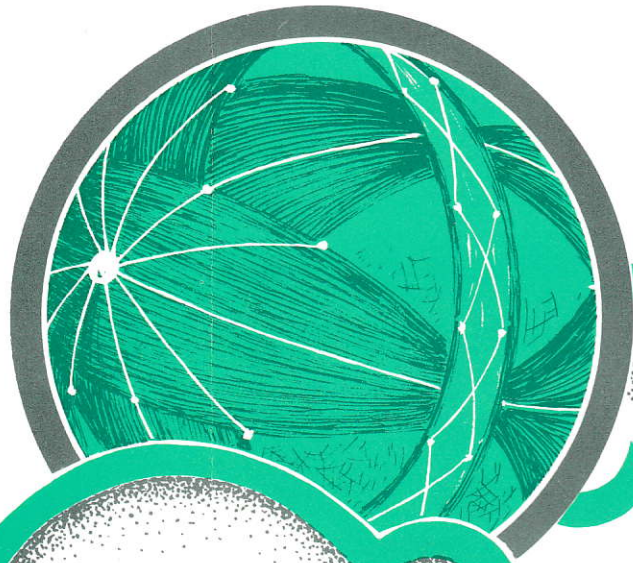
# 日本音楽集団

コンサートシリーズ NO.35

# 楽しい邦楽演奏会

——語りと音楽による——

企画構成・長沢勝俊



# 一、しやみ猫博士の冒険

作 秋浜悟史  
作曲・構成 杉浦弘和

# 二、アジアの音楽から

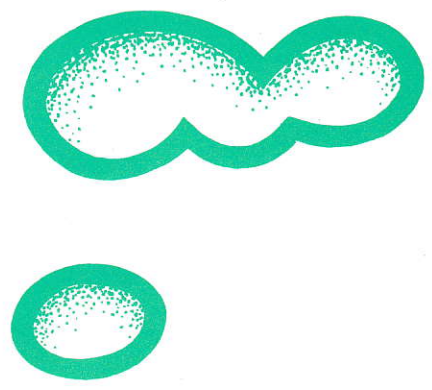
- 中国 / ヤオ族の踊り
- ベトナム / リ・カイ・ダ
- ビルマ / イエゲン・タン
- マレーシア / スランパン・ラオト
- ファリピン / レロン・レロン・シンタ
- バリ / メオン・メオン
- ジャワ / エス・リリン

編曲 || 牧野由多可・三木 稔・長沢勝俊

# 三、竹取物語より「竜女の玉」

— 初演 —

作 海津勝一郎  
作曲 長沢勝俊



演奏 日本音楽集団  
指揮 田村拓男  
語り (客演) 稲垣隆史  
照明 太田道夫  
美術 勝野英雄  
(劇団民芸)

日本音楽集団 || 渋谷区神宮前6-16-14  
小早川ビル2F  
電話 409・5374 (テレフォン・サービス)

## 一、しやみ猫博士の冒険

作 秋浜悟史

作曲・構成 杉浦弘和

〔語り〕 稻垣隆史 〔細棹三絃〕 杉浦弘和 〔太棹三絃〕

坂井敏子 〔琵琶〕 山田美喜子 〔胡弓〕 畦地慶司 〔打

楽器〕 尾崎太一・藤舎成敏

一九七二年につくられた、三木稔監修・解説による「日本の楽器入門」(コロムビアレコードELS三三四二―三)におさめられているもので、三絃を中心としながらその種類、各種の奏法及び表現等が新劇界の鬼才とうたわれる秋浜悟史氏のすぐれた台詞と、三絃奏者として三絃を知りつくした杉浦弘和の適切な作曲・構成により初心者にも楽しく理解できるとの意図でつくられた作品です。

## 二、アジアの音楽から

〔篠笛〕 鯉沼広行・西川浩平 〔尺八〕 福田輝久・田島直

士・藤崎重康 〔三絃〕 杉浦弘和 〔琵琶〕 山田美喜子・

田原順子 〔胡弓〕 畦地慶司 〔箏〕 花房はるえ・飯吉圭

子・小室圭子・倉持和枝 〔二十絃箏〕 吉村七重 〔十七

絃〕 池上早苗 〔打楽器〕 堅田啓輝・高橋明邦

〔指揮〕 田村拓男

□中国——ヤオ族の踊り

〔編曲〕 牧野由多可

中国南部広西省雲南山地のもの。農業をいとなむ少数民族で、今なお中国南部の古い文化を固持しています。

□ベトナム——リ・カイ・ダ

〔編曲〕 長沢勝俊

大木の歌という意味で、北部ベトナムで箏の伴奏でうたわれる民謡。

□ビルマ——イエゲン・タン

〔編曲〕 牧野由多可

ビルマの伝統音楽。このメロディーは夜明けをつげる音楽として演奏されてきたものですが、現代ではいろいろな会合や社会的行事のオーブニングとしてつかわれるようになりました。

□マレーシア——スランパン・ラオト

〔編曲〕 牧野由多可

海のかなたという意味で、マレーシア、シンガポールの漁村の人々に人気のあるダンス曲。

□フィリピン——レロン・レロン・シンタ

〔編曲〕 長沢勝俊

フィリピンで広く歌われ親しまれている子守唄。

□バリ——メオン・メオン

〔編曲〕 三木稔

バリ島では誰一人知らないもののないユーモラスな猫の歌。

□ジャワ——エス・リリン

〔編曲〕 三木稔

エス・リリンとはアイス・キャンデーという意味で、子供達の遊戯曲。

### 三、竹取物語より「竜女の玉」

作 海津勝一郎

作曲 長沢勝俊

〔語り〕 稻垣隆史 〈篠笛・能管〉 望月太八 〈尺八〉 宮

田耕八朗・坂田誠山・三橋貴風 〈笙〉 畦地慶司 〈細樟

三絃〉 杉浦弘和 〈太樟三絃〉 坂井敏子 〈琵琶〉 半田綾

子 〈箏〉 砂崎知子 〈二十絃箏〉 野坂恵子 〈十七絃〉

池上早苗 〈打楽器〉 尾崎太一・藤舎成敏・堅田啓輝・高

橋明邦 〈合唱〉 団員・研究団員

〔指揮〕 田村拓男

日本の代表的な古典である竹取物語を素材として語りと音楽の自由な組合せにより構成されたファンタジーです。古典のもつ

### 私の「竹取物語」

海津勝一郎

竹取の物語は最も古く、そして美しい作品です。この名作を音楽に移すにあたって、最初は原作の通りだと思います。しかしながら作曲家長沢さんは腕によりをかけて新鮮な音づけをするに違いありませんし、語り手の稲垣さんは舞台で鍛えた朗唱術を駆使してユニークなお喋りをするのは明らかです。それなのに台本ばかりが原作のままではちと頼みであり、物足りなくもあります。それで原作の簡潔な美しさが壊れて了うのをおそれながらも脚色しました。

それともう一つ。原作ではかぐや姫は人間の男達の嘘と無能に失望して天に帰ります。そのままではいかにも姫が気の毒です。折角この世に下って来た天女様に人の世の尊いものを何か一つ見つけて昇天して欲しかった……それが脚色の動機です。

日本語の語感の美しさを大切にしながら劇的な要素をもちこみ、また音楽の面では邦楽器のもつ個性を充分生かしながらアンサンブルを保つていくという方法をとっています。台本は国文学に造詣が深く、創作舞踊の台本に数多くの名作を発表されている海津勝一郎氏にお願いしました。また語りは劇団民芸で活躍されており音楽にもめつぼう強い稲垣隆史氏にお願いしました。

### ☆客演者紹介

〔語り〕の稲垣隆史さんは、昭和12年群馬県渋川市生まれ。子供のころから音楽家を志望し、ピアノを豊増昇氏に師事。俳優座養成所を経て、現在劇団民芸に所属。最近の舞台では「セールスマンの死」のハッピー・ローマンの役で絶賛を博し、目下今秋上演予定の「炎の人ゴッホ」のロートレックの役に精進中。

### 制作にあたって

長沢勝俊

今回の「楽しい邦楽演奏会」では、「語りと音楽」を中心に取上げ、語りと音楽の新しい接点を追求するとともに、アジアの国々の民族の音楽を日本楽器による編曲で聴いていただくことにしました。

日本音楽集団では邦楽や邦楽器に対する現代的なアプローチをさまざまなやり方で積極的に試みて来ましたが、今回は特に舞台的效果をも計算に入れ構成したもので、比較的邦楽になじみのうすい方々にも楽しく聴いていただきたいという意図のもとに制作したものです。

楽しいという言葉が単なる安易さに堕さないよう、心あたたまる内容のある演奏会になるよう心しました。

(表紙デザイン・戸井昌造)